



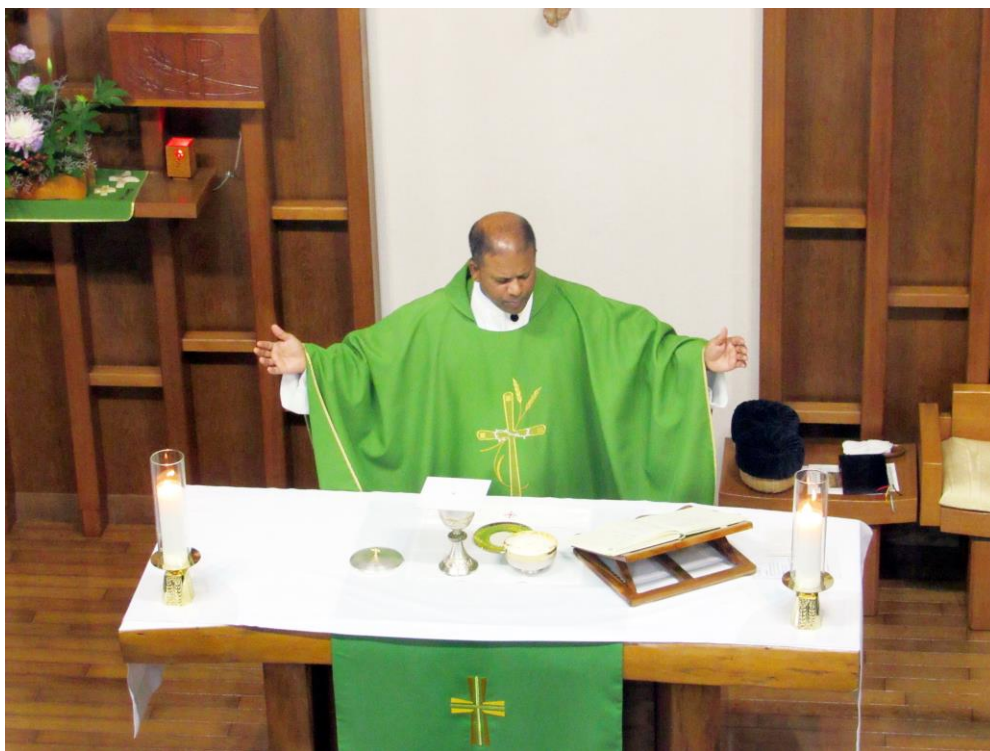
No. 182

## ロールド・ザビエル神父様送別特集号



カトリック高幡教会

ザビエル神父様の導きに感謝申し上げます！



送別の日の記念写真



ご復活ロウソクに火を灯すザビエル神父様





## ザビエル神父様 着任から転任までの高幡教会のあゆみ

- 2016年
- 4月 高幡教会管理司祭 八王子教会の辻 茂神父着任  
高幡教会助任司祭 ロールド・ザビエル神父着任
  - 5月 エレベーター建設のための臨時総会
  - 5月 さつき祭（司式：ロールド・ザビエル神父）
  - 8月 教会学校夏キャンプ（八王子教会と共同） タやけ小やけの里
  - 10月 秋祭り
  - 12月 中高生会遠足 ハンセン病資料館見学
  - 12月 黙想会 森 一弘司教
- 2017年
- 1月 岡田大司教による堅信式（八王子教会）
  - 2月 姉妹教会交流合同礼拝（永山教会）
  - 4月 エレベーター棟完成・祝別（辻神父）
  - 4月 高幡教会主任司祭 ロールド・ザビエル神父着任  
下瀬智久神学生 教会学校の指導に着任
  - 5月 さつき祭
  - 8月 教会学校夏キャンプ 山中湖
  - 10月 秋祭り
  - 10月 黙想会 ホワン・マシア神父（イエズス会）
- 2018年
- 2月 姉妹教会交流合同礼拝（由木教会）
  - 5月 さつき祭
  - 8月 教会学校夏キャンプ（八王子教会と共同） 山中湖
  - 10月 秋祭り
  - 12月 黙想会 エミリオ・マルチネス神父（ドミニコ会）
- 2019年
- 2月 姉妹教会交流合同礼拝（高幡教会）
  - 3月 黙想会 瀬戸高志神父（レデンプトール会）
  - 5月 さつき祭（司式：ロワゼール神父）
  - 6月 ロールド・ザビエル神父送別会





## 高幡教会助任司祭 ロールド・ザビエル師 誌上インタビュー

※あゆみ 167 号(2016 年 5 月 29 日)再録

### ●司祭になるまで

まだ大学の勉強をしている二十歳の時に召命を感じ、通っている教会の主任司祭がミラノ外国宣教会の司祭だったの、その神学校に入ることにしました。司祭の準備は十年間かかりました。インドの神学校での五年間、そしてイタリアの神学校での五年間と勉強した後、叙階されたのです。

叙階式は二〇〇三年八月二日私のふるさとカジペットという町で行われました。やはり、司祭の召命を与えてくださったのは神様だということにいつも感謝しています。弱い人間なのに神様が受け入れてくれること、そして、私を選び、信頼し、彼の代理人となった喜びを非常に感じました。

司祭になった後十年間インドのミラノ会の神学校の院長と養成担当者の仕事をやらせていただきました。その間、会議のため何回かイタ

リアを訪れ、宣教経験のためにタイとフィリッピンへ行ったことがあります。

### ●生まれ育った環境について

私はインドの南のハイドラバッドの近くにあるカジペットという町の出身です。

近所の人々はそれぞれの宗教を信仰しつつも賑やかでした。今まで皆一緒に平安な環境で生活していると思います。

インドの標語は「多様性の中の統一」ということです。ですから、色々な宗教があります。七十％はヒンズー教、十三％はイスラム教でキリスト教は二・七％ですが、残りは仏教とジャイナ教などです。

うちの家族は五世代に亘りカトリックの信者なのです。インドではクリスマスの日が祝日です。ですから、休みの日です。キリスト者だけではなく、他の宗教の方々もクリスマスのお祝いに参加します。グローバルゼーションの影響で非常に賑やかな祭日となりました。その日教会へ行ったり、家族と皆食事をしたり、ケーキやお菓子を分かち合ったりするのです。

趣味は歴史の読書とクラシック音楽を聴くことです。好きなスポーツは卓球とサッカーです。

私の人生に強い影響を与えたのは私の神学校の時の養成担当者です。聖人としては聖マクシミリアン・コルベです。

### ●日本に来て

日本に来たのは二〇一三年九月十一日でした。ミラノ外国宣教会の会員は皆宣教活動のため外国へ派遣されました。

私の場合は司祭になって十年間経った後に派遣されました。日本に到着した時に自分の夢が叶えられたと感じました。日本の教会は小さな教会なのに、信者の信仰は強いと思います。そして、小教区は構造的な教会だと思っています。

子供の頃から日本に対して興味を持っていました。特に、日本の発展と日本人の勤勉な働き方です。そして、日本に来る前は日本語の難しさと日本の偉大な文化のことも気になっておりました。来た後もその印象は変わっていません。まだ学ぶことが多いですので、批判することはできないと思います。

高幡教会の助任として任命されたことは素晴らしいと思います。

教会と言えば教会の信者だと思っています。その共同体は真面目に協力していると思います。教会学校と青年の方々もすぐ信仰の道を歩んでいると思います。教会の宣教の窓口がいつも開いていれば教会の共同体も生きていますし、外から見ている人々も教会に近づくといます。ですから、高幡教会の皆さん、イエス様と教会を愛していることを自分の態度から証してみませんか。

### ●司祭としての夢

私は宣教者なので、実は、宣教のため日本語が非常に大切だと思います。ですから、日本語の能力を増やしていきたいと思っています。これからの司祭活動を死ぬまで日本でしていきたいと思い、イエス様とつながりを強めていき、神の国を建てる道具になりたいです。✠



巻頭文

（ルーカ神父）  
主任司祭 ペロッティ・ジャンルーカ

九月一日から、カトリック高幡教会主任司祭、そしてカトリック府中教会協力司祭になりました。

イタリア人でミラノ外国宣教会のメンバーです。来日してから十一年になりました。ルーカ神父と呼んでください。

一九六八年六月十一日イタリアのミラノで生まれ、郊外で育ち、家族は四人です。小学生時代のことですが、図書室にあった日本についての絵本と恋に落ち、日本のアニメ映画をよく見ていました。日本に対する強い関心を持つようになったのがきっかけでした。

二〇〇八年六月七日ミラノ大聖堂で司祭叙階、四十歳の誕生日の四日前、ミラノ外国宣教会の神父として、日本へ派遣して欲しいと総長に頼み、それに同意してくれました。

同年九月三十日に来日し、二年ほどずっと日本語の勉強をしました。その後、さいたま教区で働くことになり、

二〇一〇年に川越教会で最初の任命を待ちながら働きました。二〇一一年四月浦和教会協力司祭、二〇一二年草加教会担当司祭、二〇一六年四月サバティカル（長期休暇）で再び日本語学校に通いました。二〇一七年牧に戻り小山教会・上三川教会の担当になりました。

未来を迎えてー司祭・宣教師としての私の務めは、神様に召されたことを固く信じ毎日祈ることによって、神様との時間を守り続けることだと思っています。次に自分のためではなく、他人のために司祭の使命を果たしていくので、全ての信者、また日常生活の中で出会う人々を一人ひとりとりにし、司牧者たちと積極的に協力することを絶対忘れてはいけないことだと思っています。さらに日本語ばかりか、日本の文化、また社会や教会を通して知識と意識を得ることができるように、今後とも努力していきたいと思っています。そうすれば、司牧活動や召命の醍醐味を味わうことが出来るでしょう。

有名な日本人で葛飾北斎と宮崎駿の作品が好きです。カレーライス以外和食が好きで、特にお魚は大好き！皆さまこれからどうぞよろしく願います。

イエスの平和のうちに

## ザビエル神父様送別の記



ありがとうございました！

二〇一八年信徒委員会委員長として、丸々一年間、神父様の近くで、教会の仕事をさせて頂き、今は、あの楽しかった時を思い出しています。さつき祭が終われば、例年であれば、ほど、峠は越えたように思っていた私に、二〇二〇年の創立五〇周年を一年かけてお祝いしようなどなどと、しっかりと課題を与えてくれました。教会内の整理整頓を実践されており、家では出来ない私が教会のことはやらせてもらいました？「当番信者」の時など神父様の描く信徒使徒職のイメージと私のイメージは、少し違って

いたかもしれませんが、強い信念のもと行動される姿は、日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエルに倣っているのではと思われる時もありました。

八月の平和旬間が来ると、やはり平和について考えます。今年のカテドラルの講演会では「よい政治は平和に寄与する」をテーマに上智大学の中野晃一さんが話されました。八月十五日付けで、日本カトリック正義と平和協議会は「日韓政府関係の和解に向けての会長談話」を発表しました。日本と韓国の政府間の関係が緊迫しています。「神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました」との言葉を託された教会として、私たちが大切な隣人である韓国との間で、いかに和解と平和を深めることができるかを考えましょう、と。

紛争の地にも赴くであろう、ザビエル神父様のためにお祈りいたします。ミラノ外国宣教会として、世界の地の果てまで何度となく赴き、その成果を携えて、六年後ここ、高幡の地を踏むとき、まだ見ぬロールド・ザビエル神父様にお会い出来るのではと、楽しみにお待ちしております。



Graze Padre!  
ロールド・ザビエル神父様

毎日曜日のミサの時、ザビエル神父様への挨拶は、Buongiorno Padre! (おはようございます。神父様)です。すると、Come stai? (お元気ですか?) の言葉が返ってきます。神父様はミラノ修道会に何年もおられ、イタリア語が堪能です。かく云う私は、ミレニアムの時ローマ訪問で、航空機内で一夜漬けならぬイタリア語「航空機漬け」の会話と、今でも続いている男性合唱の楽譜のイタリア語の音楽用語から出発した中途半端なイタリア語でした。でも神父様は私の下手なイタリア語に対応して下さいました。そして、毎日曜日にイタリア語で挨拶するのが楽しみになってきました。

ともあれ、ザビエル神父様は、日本流に言えば、「筋を通す」ということで終始されていたのではないかと思います。集合体であるカトリック教会の主任司祭という立場上当然の方向だと思います。また、葬儀ミサの際には、当教会の信者でなくても融通し、弾力的にお取り扱いされていたようです。

以前神父様ご執筆の記述では、「私達はどこに居ても、神のみ旨とお言葉に従っていくのが大事」とありました。私達も、この言葉を旨とし、日々の信仰生活を送っていくことが必要と思われま



どうかご健康に十分お気をつけ、ご活躍を期待し、祈っています。またの機会にザビエル神父様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

## ザビエル神父様へ

ザビエル神父様には、特に会計委員の二年間大変お世話になりました。エレベーター建設資金返還のこともあり、何かとご相談する機会がありました。非常に理知的で積極的な方という印象でした。委員会でも、はつきりとご自分の意見を述べられましたが、またこちらの言い分もきちんと聞いて下さり、真剣に人に向き合う神父様の姿勢には、教えられることが多くありました。厳しいだけでなく冗談がお好きで、NHKの人気番組『チコちゃん』をまねたり、お茶目な面もありました。また、私の高齢の母のこともお氣にかけて下さり、いつも感謝しております。

これから進まれる道も平坦ではないかも知れませんが、『ブラザー・サン シスター・ムーン』のように、いつも爽やかな笑顔で歌いながら神様に向かつて歩まれますように。来年の五十周年でお会いできることを楽しみにお待ちしております。三年間、本当にありがとうございました。どうぞお元気で！

## 司牧者 ザビエル神父との交わり

私は二〇一五年に高幡教会に転入し、高木神父、辻神父と短いながら充実した指導を受け、主体性の高い共同体の一員に入れて頂き感謝の日々を送っております。そして二〇一六年ザビエル神父が主任司祭として高幡教会に赴任されたという流れの中で経験し感じたことを記してみたいと思います。

神父の印象は始め何と明かるい頭の良い方だろうと思いました。神父に承諾を得て都合上昼間の勉強会には出られないので入門講座に出来るだけ出席致しました。その場での神父はまだ慣れたとは言えない日本語を精一杯駆使して指導に当たられていました。皆で二回程会食しましたが、お身体のを朝も昼も殆ど抜いて会食の為に体調を整えられて臨まれる可愛らしい(失礼ですが)一面がとても印象に残っています。

さて暫くすると神父様の思い描く教会の有り様に真剣に取り組まれていくお姿を見るようになりました。

私の場合オルガンのご奉仕を例に取れば、聖体拝領の行列時は行列が終わる、神父が祭壇に戻ると同時に終わるようにし、そしてその後はBGM、その後神父が座して祈りに入ると同時に沈黙の為オルガンは停止という強い希望が出されました。曲は「さあこの辺で終止

形にしないで」と思ってから最低二、三小節はの必要です。座高の低い私にはとても緊張する時でした。でもはつきりと指示され何とか可能であればそれ程負担ではありませんでした。しかしながら、五十年の長きに亘り困難を乗り越え力を結集して素晴らしい共同体を育ててきた諸先輩方と新しい息吹を吹き込ませたい神父様とが一つになるには、あと一、二年、高幡教会で司牧をして頂きたかったと思います。

善き司牧者として時を重ねられる神父様の上に、神様の豊かな御加護がありますよう祈っております。

## 主は与え、主は奪う

ロード・ザビエル神父が主任司祭として初めて高幡教会に来られ、教会活動の活性化に尽力される姿を拝見し、カトリックの教えに忠実で、語学力に優れ、かつ教会運営にも秀逸な神父はおそらく二、三年で取り上げられるだろうと観念したら、全くその通りになり、うれしいやら、残念やら、複雑な気分が今も続いています。

着任されると発表があった二年半前に早速委員達と八王子教会に師を訪問し、高幡教会として大歓迎したいと表明



しましたが、師はにこにこされ頼もしく感じました。着任後のミサの後に中庭でささやかなティーパーティー形式の歓迎会を実施し、大いに盛り上がったことが忘れられません。

師は委員会にも積極的に関わって、エレベーター棟建設を完遂させ、手紙作戦で資金集めをスムーズならしめました。高幡教会創設五十周年への取り組みも推進され、教会のあり方をカトリックの基本に立ち返り、ゼロベースで見直してくれ、信徒会規約も見直しされました。

師のミサの思い出を三つ取り上げます。その一、説教の最後に「と思います」ではなく、「(何々)しましょう」と歯切れよく締め切ってくれて信徒を勇気づけてくれたこと。その二、聖体拝領の時に師の前で列が渋滞しご婦人たちが拝領をお互いに譲り合った時に師が真剣に叱られたこと。確かにイエスの前に殺到すべきであり、譲り合いはないです。その三、最後の説教にて子どもたちに三位一体を説明する時に、「朝に目が覚めた時に、起き上がる前に、父と子と聖霊の御名によってアーメンと十字を切りましょう」と言われたこと。翌日から私の日課となりました。

ザビエル神父のこれからのご健康とミラノ会本部の顧問としてのご活躍を、そしてインドにおられるご兄弟といつまでも仲良くされますようにと毎朝祈っています。「主は与え、奪う」の通りになりましたが、これから何度も会える

ような気がしてなりません。いや、こちらから会いに行きます。

## 忘れません、

### ザビエル神父様の目

初めてお会いした時―辻神父様と一緒に高幡教会に来てくださった時―神父様の目は親しみやすく、優しくかったです。次にお会いした時―主任司祭として初めてミサをしてくださった時―ご聖体を奉挙なさる目は熱く燃えているように見えました。

その後神父様と目を合わせてお話しをする時、神父様の目は鋭く、万事ゆるゆると過している私は鋭い目の力をちよつと怖く感じました。

日曜日のミサの前、私の一番小さな孫とハイタッチをしてくださった時、神父様の目には愛情たつぷりの笑みがたたえられていました。

そして葬儀のミサ、入祭で亡くなった方を紹介なされる時、神父様の目からは涙が落ちました。

七月七日のお別れの日、神父様の目は、初めてお会いした時と同じでした。神父様六年後またお元気な姿を見せ

てください。ありがとうございました。追伸  
オルガンの調子が悪かった時、親身になって看病をしてくださってありがとうございました。

### ザビエル神父様の手

ザビエル神父様のことが大好きな三歳の娘。毎週ごミサの前に神父様とハイタッチをするのが恒例になり、娘はそれを毎回とても楽しみにしていました。神父様がお留守の日曜日は、寂しくてごミサの間ずっとふくれっ面になってしまいうぐらい。それだけ神父様との、「タッチ!」のほんの数秒間が、娘にとって大切な大切な時間だったようです。

「ザビエル神父様の手はどんな手だったの?」と聞いてみたら、「ええ?あのねえ?」としばらく考えたあと、「うふふふふふふふ」とまさかの思い出し笑い。そして満面の笑み。きつと神父様の大きな手のひらには、人を笑顔にしたり穏やかな優しい気持ちにさせる素敵な力が宿っているのですね。

まだ幼い娘にも「幼稚園は楽しいですか?」「早く大きくなって侍者をやってくださいね」と、声を掛けてくださる神

父様。いつも大きな愛と優しさで包んでくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。今はまだムチムチの小さな手ですが、今度お会いする時には、きつとひと回り大きくなつてしまつていて、さうに思いつ切り「タラッチ！」してくだいね。

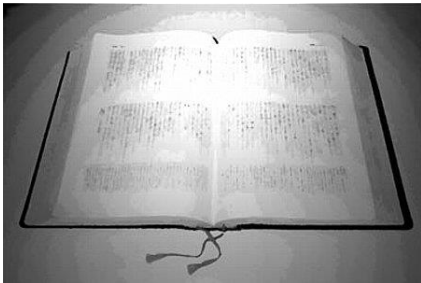
## ザビエル神父を想うこと

聖堂での礼拝ミサをすませ、前庭でお茶をしていると後ろで目隠しをされました。「後ろのしょうめんだあれ」という子供の遊びを思い出し振り返ると後ろにいたのは、何と笑顔のザビエル神父さんでした。

毎週金曜日の「聖書を読む会」は楽しい学びのひと時でした。仏教（禅宗）で「啐啄同時」という言葉があります。「禅で、機が熟して悟りを開こうとしている弟子に師がすかさず教示を与えて悟りの境地に導く」（大樹林）という意味ですが、神父さんを交えて喧々譁々の議論でにぎわいました。

鶏の卵は自力では孵化できません。親鳥が二十一日間懸命に暖めた結果、雛は卵の殻を中から突きます、親鳥は機が熟

した事を察知し殻を破り孵化させるのです。私たちが洗礼の時を迎えるのも神父の介添えとタイミミングが必要なのだと学びました。キリスト教との共通項を仏教に見出す新しい発見は驚きでした。聖書の奥深さを知りました。童心を失わずご聡明でいつもポジティブな神父さん。また、祈りの場を大切にされて、厳しく所作を指導してくださいました。私は多くの主任司祭を知りませんが、二年余りのご在任でしたがザビエル神父は忘れ得ぬ師となりました。人の出会いは「袖触り合うのも他生の縁」といいます。前世（＝他生）でお会いしたような深い宿縁を感じさせる方でした。任期を終え、またのお帰りを待ち望んでいます。ご健在で益々のご活躍を遠く日本の高幡の空からお祈りしています。今夜は星が降るようです。



## 抜群の記憶力を持つ神父様

毎週土曜日の十七時三十分から一時間、ザビエル神父様と高幡教会の皆様七、八名で、キリスト教の勉強を進めてまいりました。実は勉強会の時間のうち二割ぐらひは、NHKの朝ドラ（「半分、青い」「まんぷく」など）や、「チョコちゃんに叱られる！」の話題に脱線し、日本人の習慣や文化の話に及んだり、主人公の生き方について語ったり：私たちの集中心力が途切れ無いようにとのお氣遣いもあつたと思いますが、勉強熱心な神父様にとつて、福子さんやチョコちゃんは、より深く日本文化に親しむためのツールであつたのかもしれない。一方、日本と本場との違い、派遣の祝福は日本では「行きましょう」ですが、英語では「go（行け！）」、聖体拝領時に未受洗者への祝福は日本独特の習慣など、雑学的な話も伺え、とても参考になりました。

また神父様は人の名前を覚える抜群の記憶力をお持ちでした。人に話しかけられるとき、まず名前を呼ばれていたように思います。いつも尊敬しておりました。名前と言え、洗礼名についてご相談した時のこともよく覚えています。洗礼名は大事！と教会の皆様に伺って図書館で調べてきたことを報告しましたと

ころ、「そんなにしなくても良いですよ」と仰って、ホワイトボードにあつさり三案を書いていただき、その後も熟考したのですが、結局はご提案いただいた第一案に決めました。手の上の孫悟空・・・のような感じでした。

私の洗礼のために初心者向けの勉強会にお付き合いました。皆様が、そしてザビエル神父様、本当にありがとうございます。ありがとうございました。あのような時間を過ごせたことは、一生の宝物です。

そして、神父様、これからも長くお導き下さいますようお願いいたします。次回お会いできる日を、首をながくしてお待ちしております。

## 司牧いただいたことに 感謝を込めて

ザビエル神父様、故郷のインドで、ご家族と楽しい時間を過ごされたことと思います。

神父様はいつも、御ミサの前に教会の入り口に立たれて、信徒に「おはよう」と挨拶をされていましたね。私が骨折した指に包帯を巻いて教会に行った時、「どうしたの?」と聞かれた神父様に

「柔道の稽古で骨折しました」とお話ししたら、大笑いされていたことをよく覚えています（笑われるツボが独特だな、と...）。

神父様が司式される御ミサの、美しい所作、朗々と歌われる式文が好きでした。お説教にもいつも力があって、「準備されるのに、どれだけ多くのお時間をかけられているのだろう」と思っていました。また、地区で久々に家庭集会を開いた時も、少人数の集まりであつたにも関わらず、たくさんの方の準備をしてくて下さいました。心から感謝しています。

神父様との一番の思い出は、教会学校の夏キャンプに一緒にしたこと。神父様がギターを弾かれたキャンプファイヤーや、バーベキューで本当に楽しそうに肉や野菜を焼かれていたお姿が忘れられません。

神父様が仰っていたように、若者や子どもは教会の未来、希望だと思います。私も大人リーダーの端くれとして、若者や子どもたちの心の故郷になるような教会にすべく、少しでも努力していきたいと思っています。

ミラノでは、世界中を飛び回る日々ではないかと想像しています。ご無事に、実り多い宣教活動になりますよう、心からお祈りしています。

## ザビエル神父との出会い

私の信仰生活にとって主任司祭であつたザビエル神父様はかけがいのない方でした。

ザビエル神父様は、確たる信仰に裏打ちされたご自身の考えをはつきりとおっしゃる方でした。ある時、創立五十周年チームの集まりの中で、私達があることについて「高幡教会では今までこのようにしてきた」という言い方をすると、ザビエル神父様は毅然として「前例にとられてはいけません。前例がなくても神のみ旨に従って選び、動くものです」というような言い方をされました。私は目を覚まされたように思い、その言葉が深く心に浸み込んでいきました。

またザビエル神父様にはイスラエルの巡礼の旅でも妻と共に世話になりました。特に聖書にあるカナの婚礼が行われた教会で、Aさんご夫妻と私達夫婦のために「結婚の更新」までしてくださつたザビエル神父様の配慮は生涯忘れることはないと思います。

ザビエル神父様は、たまたま、ミラノ会の本部が私達の住む若葉台に近いということもあり、ニュータウン地区の家庭集会やイスラエル巡礼の旅の後で気軽に我が家に足を運んでくださいました。

神父様が高幡教会を引き上げられ、本

部に移られた帰国前日の七月九日にひよっこりと我が家に来られ「五十周年、頼みましたよ」と言われたことは忘れられませんが。ザビエル神父様、大丈夫です。そして、ミラノに会いに行きますよオ。

## おらが教会の神父さま

ザビエル神父さまとの思い出は、失敗から始まりました。着任早々、私はつい口癖で「センセイ」を連発したのです。何度か続けて言ってしまったのでさうがある時「私はセンセイではありません。司祭です！」と言われて、慌てて口を押さえました（当然です）。イスラエル巡礼では、いくつかの質問をして、その度に神父さまは「ワッハッハ・・・Aさん、もっと勉強して下さい」との返答（ウッやられた）。

長崎・五島巡礼では、八王子教会のみなさんや辻神父さまと楽しそうに話されていたのを覚えています。五島を歩きながら水面に映る教会堂を「美しいですね。」と喜んでおられました。きっと日本のキリスト教会史も学ばれて、長崎・五島への思いも強かったのではないでしょう。

ザビエル神父さまと話していると神

父と信者の立場の垣根がスーッと無くなっていくのを感じます。もともと色々な話を伺いたかった。困らせる質問もしたかった・・・。今度、高幡に来られる機会があれば、私達が落ち着いてゆつくりと十字を切る姿勢を身に着けることが出来ている（？）ことを見せたいです（笑）。

私達は、ザビエル神父さまから楽しい思い出をたくさんいただきました。神父さまのお説教通り『信じて、祈る』を実践してゆきたいと思います。くれぐれもお元気でいらして下さい。ご活躍をお祈りしています。

## 忘れられない神父様

インドでの休暇を終え、ミラノでお忙しい日々が始まっている事と思います。

ザビエル神父様は、私にも高幡教会にも強烈な印象を残した神父様でした。聡明さ、知識の多さ、行動力に驚くことの多い二年間でした。主任司祭として何をすべきかを常に考え信徒の成長のために時に苦言を呈する強さは、日本人司祭に無いもので新鮮でした。

「聖書を読む会」での神父様の言葉には

「イエスは唯一の神であり私たちキリスト教は世界一素晴らしい宗教である。何の疑いも持たず信じて付いて行きましょう」というまっすぐな信仰があるのです。私のように森羅万象にも神様の存在を意識する日本的な感覚との違いを面白く感じるとともに、自分は本当のキリスト教信者になることは出来ないのではないかと、というような感覚も持ちました。たくさん疑問、反論に丁寧に答えて下さったひと時は私が成長する貴重な時間でした。

これからの時代、キリスト教はアジア、アフリカへと宣教の場を広げて行くことになるでしょう。ザビエル神父様は持っている才能の全てを使ってカトリックの信仰を広めて下さい。

今まではご家族、ミラノ会の神父様方の祈りに守られていたと思いますが、これから高幡教会の信徒の祈りもザビエル神父様を助けていることを忘れずにいて下さい。お別れは寂しいですが、再会した時にお話を聞かせて下さるのを、楽しみにしております。ご活躍を心からお祈りしています。





## いろいろ有難うございました

あの頃私は不眠に悩まされ、うつうつとした毎日を過ごしていました。そんなある日曜日のミサの後のことです。神父様はつかつかと私に近づき、「あなたは本気で病気を治したいと思っていないのでしょうか」と仰いました。私はあわて、「いいえ。ただお医者さんに行っても変な薬をもらうのが怖いのです」と。神父様はあの大きな眼で私を睨みつけ、「真剣に治りたい人に変な薬を出す医者なんていません」、そして更に、「ちゃんと生きてない人に良い死は訪れません」と厳しい口調で仰いました。それから二日後、私は心療内科を訪れ、薬をもらい二週間その副作用に苦しみました。それが徐々に不眠から解放されました。

それから何週間経った頃でしょうか、あの神父様のお別れの挨拶があったのは。「神父様がこの教会からいなくなってしまう」、私の心は悲しみに混乱しました。その後は一回でも神父様のミサを欠かしたくないと、初金ミサ、主日のミサと、せっせと、関根さんに誘ってもらい教会へ通いました。神父様のいらつしやったこの二年間をもっともつと大切に過ごせばよかったとどんなに後悔しましたことでしょうか。「六年経ったら帰ってきます」と何度も仰ったけれどこの高齢

の私には六年は永すぎます。そんな時間はないのです。もうこれが最後だろうなあとと思ったら、お別れの日には涙で神父様のお顔が霞みました。これから老いが迫り病の床につく日が来るでしょうが、神父様の「ちゃんと生きない人には良い死は訪れない」というお言葉を忘れず、一日を大切に悔いなき生き方をしようと思っています。神父様もミラノで頑張ってください。お祈りの中でいつも神父様のことを思い出しています。いろいろ有難うございました。

## 明快なザビエル神父様

ザビエル神父様が高幡教会へいらしてどの位経った頃でしょうか？受付で何をしてしまったのかはもう覚えていないのですが、一つ失敗をして、申し訳ありませんでした、と小さくなって神父様に謝りました。その数日後また神父様にお会いしたので、先日はすみませんでした、ともう一度お詫びしたところ、何のこと？と暫く怪訝なお顔。ああ、あのこと？Aさん、謝るのは一回でいいです、何度も謝られるとこちらが疲れま

最初はびっくりしましたが、何と明快！と時間と共に気持ちが晴れ晴れとしていきました。子供の頃母からお礼やお詫びは二回目の方に会ったら必ずもう一度言うように、と言われていました。が、そのため私は少し煩雑な性分になっていたかも知れません。頭脳明晰な神父様のようには到底なれませんが、これからはもう少しシンプルで、願わくば明快な言動、そうして生き方をしたいと思うようになりました。美しく居心地のよい教会玄關ホールを眺めながら、ザビエル神父様ありがとうございました！という気持ちでいっぱいになります。

## 神様の御計

昨年の十月初め頃、ゴミサが終わり誰もいない高幡教会に初めて訪れました。悩みに悩んでプロテストタントからの転会という事で不安な心のまま訪れた教会、正面にマリア様のご像と教会の階段を軽やかに、そして笑顔で私を出迎えて下さったザビエル神父様。緊張している私に流暢な日本語で話しかけて下さいました。そして「プロテストタントとカトリックの境界はありません」と話して

下さり「今の教会としつかりと和解をしていらして下さい」とのお言葉に自然に安堵の涙が流れてしまいました。

その後、Aさんと、月一回お話をする機会を与えて頂き、無事に転会式・堅信式と導かれました。

本当に短い間でしたがザビエル神父様のごミサに与れた事を心からうれしく思い、そのすべてが神様の御計画のひとつであったと信じています。

遠いイタリアの地で大いなる働きができますよう心よりお祈りいたします。

## ザビエル神父様

日本はもうすぐ秋です。

娘の結婚式をしていただいてから二度目の秋です。

日本での初めての司式になるということで、とても喜んでくださり、心をこめて準備をしていただきました。

あたたかく笑顔がいつぱいの一日でした。

神様から、神父様から、そして出席して下さった方々からの祝福にあふれていました。

婿のことを「良い青年ですね」と何度も

何度もほめて下さって、私はまるで自分の子供がほめられたように嬉しかったものです。

その二人も八月の末に父親と母親になりました。

元気で丸々と太った、お相撲さんのような「女の子」です。毎日大さわぎしています。お祈りいただきありがとうございます。

私も忙しくなりそうです。

元気なおばあちゃんで頑張ります。

神父様の御健康を祈りつつ

又お目にかかれる時まで・・・ごきげんよう。

## ザビエル神父様へ

神父様が高幡教会の主任司祭としてお出で下さり、早や二年二ヶ月が過ぎ去ったとは信じられない思いです。

流暢な日本語でミサにあずかり、時には故郷のご家族の事など織り交ぜてお話くださり、とても心のこもったお時間をいただきました。

朗読の時など、緊張しながら何とか終えた後で「良かった」とお声をかけて下さり、気持ちになった事を覚えております。

日曜日の朝はいつも、教会の前庭で私達をお迎え下さり、ありがとうございます。

堅信への思いがありながら、迷っていた私は、ザビエル神父様によってお導きいただき、感謝の念でいつぱいです。

何処にいらしても神様のお恵みがありますように、こゝ高幡教会よりお祈り申し上げております。

## ロールド・ザビエル神父さま

ザビエル神父さまとの二年半は、風と共に現われ風のように去っていかれたようで、短かったような、でも、ある意味で長かったような印象もいたします。神父さまのお話や行動で、私は眠り（信仰的）を一喝された気がするからです。

受洗当初の新鮮な、意欲ある神への眼差しは、日々の生活に埋もれてしまっていたことに気づかされました。信仰生活（あえて分けなくても日常生活でも同じでしょうが）で、同じ繰り返しにみえる「形」の中に、大切な「真実」が隠れている。その繰り返しは、実は一回一回新しいものであり、だからこそ、真剣に向き合って積み重ねられたもの―目

に見えぬ真実―は、神の道でもあるのではないかと感じております。

ザビエル神父さま、ありがとうございます。次にお会いできた時には、もう少し深い「真実」について語れたら・・・と願っております。

これからもお元気で、神さまのために、働かれますように！！

## 喜び、祈り、感謝

ザビエル神父様は、主日のミサに与る為に集まって来る私たちを、いつも、前庭に立って待ち、笑顔で迎えてくださいました。そうして、私たちはミサの終わりに、力強い派遣の祝福を受け、それぞれの場所へと出て行きます。喜びの週の始まりです。

神父様は、信徒一人ひとりのタレントを引き出し、生かしながら高幡教会がよい良い共同体に成長するように教え導いてくださいました。

「ルルドの会」には、病者の為に捧げる「初土ミサ」を提案され、ご家族、看護・介護する方々にも優しく心を寄せ、静かに共に祈る聖母の土曜日が始まりました。

火曜日、金曜日のミサ、テゼの祈り・

・日常生活の中で少し立ち止まり、神の語りかけを聴く。沈黙の中に身を置く時間を頂けた事も感謝でした。

また、神父様は私に幾つかの貴重なチャレンジの機会もお与えくださいました。信仰を深めながら得がたい経験が出来た事を有難く感謝しております。ありがとうございます。

覚悟はしていたものの、神父様が高幡教会を去られる事は寂しく、試練ですが「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。ルカ二二三・四十六」。父を信頼し、この心で新しい使命の為に日本を離れるザビエル神父様の健康と豊かな聖霊の恵みと導きを心からお祈りいたします。また会う日まで。

## ザビエル神父様との思い出

ザビエル神父様と最初にお話ししたのは、二〇一五年十一月二十三日、カトリック神学院のザビエル祭でした。多摩西宣教協力体として信徒の有志が力を合わせ、ザビエル祭でカレーを販売することになりました。当日はとても寒い日だったせいもあり、売れ行きも好調で大忙しでした。そのときに、裏方としてお手伝いくださったのがザビエル神父と

シスター山中智恵さんでした。その後、高幡教会の主任司祭として赴任されましたが、わたしの中では、あのときのザビエル神父様の印象が強く残っています。それは誠実で、謙虚で、明るい、そして笑顔のすてきな神父様です。日本にお帰りになられたときには、インドカレーとは違う、高幡教会のソールフードである「高幡カレー」を召し上がっていただきたいと思います。ザビエル神父様のますますのご活躍を祈念いたします。

## ありがとう神父様

ザビエル神父様、ミラノ会総長顧問ご就任おめでとうございます。短い間でしたが大変お世話になりました。

神父様が着任され、教会の入り口にお立ちになりご挨拶をされていました。ある日、神父様から「お話があります」と言われたのが初めての会話だったと記憶しています。そのお話は「教会に財務委員会を作りたいので財務委員として協力してほしい」とおっしゃられました。数日思慮しましたが、神の御言葉と思いお引受けしました。財務委員会では、神父様の教会の将来

を案じた、強い思い、行動力、スピードを感じました。その中でも特に、メルセス会と坂道の駐車スペース使用許可とボイスカウト・ガールスカウトと修道院敷地、施設の使用貸借覚書の締結は、課題を提起し速やかに完了しました。また、教会財政の問題、中長期的な建物の維持管理の問題についても検討しました。

財務委員会の立ち上げに関われたことを感謝しています。

神父様の信徒への思い、やさしい心、笑顔と優しいまなざし、時折見せる厳しい表情など思い出されます。

これから益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 神様のお導きを正直に実現

ザビエル神父様からお声がけをいただき、信徒委員会の仲間入りをし、いろいろと勉強をさせていただいています。

さて、ザビエル神父様の考えを思うと、神様のお導きを正直に実現されているなということです。私たちがこれまでいろいろなことに気をつかったり、遠慮していたようなことを、正しいと思うことはさつと実行に移す、そんな点を

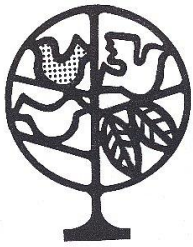
もった神父様だと思います。

私が神父様に「こわいことがありますね」と話しかけたら、「そうですね！」と笑っておられました。

また、ザビエル神父様は経営という意識をしつかり持たれているなということが委員会の中で意識できました。その経験から、教会の中でも、次は何をしながら、はいけないのか、今必要なことは何か、というようなことが意識できるようになりましたし、とても大切だと思いました。

特に今年は、三月から四月にかけて、また四月から五月にかけて神父様がイタリア出張でご不在でしたので、信徒会委員のメンバーは、それぞれの役割を果たすために一生懸命取り組んでいました。これからの活動にも生かしていく経験ができたと思います。

ザビエル神父様は九月よりミラノでの活動、さらには全世界を飛び回りながら活動されていくのでしょうか。世界中の人々を神様へ導いていきますように、よろこび、幸せにしていけますように、お祈りいたします。神に感謝。



## 数々の言葉

- ・私は日本を希望してきました。
  - ・私は種を撒きに来たのではなく、ありまぜん。耕しに来たのです。
  - ・詩篇二十三編は委ねる祈りです。
  - ・マルタだけではだめです。マリアでもなくてははいけません。マルタマリアです。
  - ・従順でなくてははいけません。
  - ・言われたことだけすればよいのです。
  - ・私が今話しているのです。
  - ・出来ますか？出来ないのですか？
  - ・噂話はテロと同じです。
  - ・謙虚さと敬意を持ってやってください。
  - ・なぜ兄弟の目の中の塵を見つけるのに、自分の目の中の丸太に気がつかないのですか。
  - ・どうしていましたか。元気ですか。
  - ・聖霊の導きを信じないのですか。
  - etc. etc.
- ザビエル神父様との会話の中で沢山の事に気づかされました。心から感謝いたします。
- わがたましいは主をあがめ  
わが霊はわが救い主なる神を喜びた  
たえます。

## ザビエル神父様

ありがとうございます

笑顔の時は、子供のように愛らしい神父様、

真剣な顔をしている時は、畏敬の念を抱かせる神父様

最初の出会いの時からお別れの時まで、心に残る思い出が一杯です

不思議な縁を感じます

又、お会いできる日を楽しみにしています

わたしはあなたを国々の光とし

わたしの救いを地の果てまで、もたらす者とする（イザヤ書 四十九・六）

添付写真―二〇一八年十一月二十日エルサレム・聖墳墓教会にて（私の好きな写真です）



## ザビエル神父様

第二の故郷であるイタリアでお元気でお働きの事と思います。

短い時間でしたが神父様のご指導のお陰で、嬉しいことに今の高幡教会はお掃除の行き届いた教会です。色々働く方々のチームワークも上手にいつていると思います。心より感謝いたします。

明るく優しい笑顔とハツキリとした口調で間違いを示して下さい下さるお姿をいまでも懐かしく思い出しています。

個人的にも沢山思い出がありますが、イスラエルにご一緒できた（毎日十日間もずーつとご一緒でした）は忘れることが出来ない思い出です。

ザビエル神父様のご聖務の充実とご健康を主人共々お祈りいたします。

感謝をこめて

## ザビエル神父様の思い出

ザビエル神父様との最初の個人的出会いは、病者の塗油の秘跡であった。私は二十五歳の時事故で、片目を失明

した。昨年六月、残った眼の白内障の手術をすることになり、数日前に神父様に事情を話して、お祈りをお願いしたところ、「致しましょう。一緒に、病者の塗油も致しましょうか」と言つて下さった。

手術は無事に終わり、教会生活も順調に進み、爾来、私達の間に、ある、友情、が芽ばえた。季節毎に子、孫を交えて神父と食べ歩くのを神父も楽しみにして下さるようになった。インド料理、回転寿司、ひな鳥山（舟が料理を運んで来る）、ふぐ料理、山の中の懷石料理など。神父はこれらの料理を感想を交えながら、楽しそうに召し上がり「このような食べ歩きに声をかけてくれるのは、まことに嬉しい」と仰つていた。

いつも二人の孫が同席していたが、子供への接し方、からかい方、遊び方は、独特で子供たちもなついて、「やい神父―」などと幼児が言えば「はい、はい、ザビエルと呼んでいいよ」と返し、「神父様と別れたくない」と地面に寝て足をバタバタさせる子供の姿を楽しみに見ておられた。

カトリックの信仰について深入りして話す機会はありませんでしたが、神父のタイプについて、こんなことを言われた。「神父には、学者型と司牧型の二タイプがある。学者型はベネディクト十六世。司牧型は現フランシスコ教皇である」と。その時、私は「ザビエル神父自身は、司牧型を目指す神父である」と直感した。



ザビエル神父は、日本語を特に会話をよく勉強なさった。本も数冊差し上げたが、「日本語がまだ不十分でしつかり読めず残念です」と正直に仰った。神父の送別会の日、私は告解をお願いした。送別会の間に、神父は聖堂の片隅で、告解をしつかりと聞いて下さった。この点、まことに生真面目な神父であった。そして「必ず日本に戻って、司牧活動が続けたい」とも仰っていた。その日は必ず来るであろう。その日まで、無事に生き永らえていたい。

## ザビエル神父様の思い出

初孫の初聖体のミサで司式していただいた時の感動は生涯忘れることができません。神父様に深く感謝いたします。また、金曜日の聖書研究会や地区会で祈りの大切さを学んだことも感謝しています。

教会での活動では、ホームページグループで大変お世話になりました。ホームページグループは二〇〇四年に立ち上がり諸先輩に支えられて十五年の歴史になります。二〇一七年以降ザビエル神父様に深い関心を持っていたからこそ、啐啄同時という言葉がありますが、

神父様が親鳥となっていたいただき、雛の私たちも内側からつittedのですが、卵が割れ宣教活動や教会内部のコミュニケーションツールとしてより役に立ったようになってきたようです。Signis（シグニス）での学びも実ったようです。そして、教会のホームページは世の中のホームページとちよつと違うように考えるようになりました。専門知識を持った人たちがつくるのではなく、高幡教会が聖霊の息吹と共につくるのではないかと想うようになりました。ザビエル神父様がミラノ宣教会のお仕事でイタリアに派遣されてしまい淋しい限りですが、これからどうぞお元気で主の道を進まれますようお祈りしております。

## ザビエル神父様の思い出

週日のミサ  
火曜日の夕方十七時三十分からミサがありました。

与る方は少なく、とても小さなミサでした。高幡教会の聖堂はとてもシンプルですが、窓からの夕暮れの四季が美しい装飾です。春は若葉の芽吹き、夏は蝸の鳴き声、秋は彩る木々、冬は冷えた窓に揺らめく祭壇ろうそく。自然のステンドガラスのような風景の中でザビエル神父様は

父様は一人で祭壇準備をされ、冷房や扇風機、暖房を点けて、私たちを待っていてくださいました。週日にごミサに与れる事が幸せですとお伝えすると、「そう言ってくれることが幸せです」と返して下さいました。お祈りをしています。感謝を込めて。

## お元気でいらっしやいますか

短い期間でしたが神父様から先ず初めに主イエス様を信じ、父なる神を信じるといふ信仰の最も基本のところを教えてくださいました。新約聖書の福音書の中でも、信仰の深さや浅さについてイエス様が語られている場面がいくつもあり、一口に信じると言っても、容易で単純なことではないと感じました。日々のミサを通して、しつかりと信仰を固め、深いものにしていききたいと思えます。そして、神の御心に適う生き方を少しづつしていけるように努力していきたいと思えます。

ザビエル神父様とまたカトリック高幡教会に出会え、また何人かの神父様や教会の信徒の方々とも出会えたことを神に感謝します。

教皇様初め、全ての教会の皆様と共にザビエル神父様が永遠に神と共にいますようにお祈り致します。アーメン。

《編集後記》

◆ザビエル神父様の転任に際して、送別特集号を発行することになりました。多くの方のザビエル神父様への思いを編集して、三年間の神父様との関わりの中での様々なすばらしさが偲ばれました。締め切りや原稿編集期間に間に合わなかった方々の心も合わせて私たちは感謝を表すと同時に、ザビエル神父様がこれからも大活躍されることを願いお祈りいたします。様々な場面で信仰生活の模範を示されながら司牧していただきありがとうございました。

カトリック高幡教会 教会報「あゆみ」

ロールド・ザビエル神父様送別特集号

二〇一九年九月二十二日 発行